

令和7年度 地域振興事業

事業名	事業概略
【若年層支援事業】 水俣高校から水俣・芦北地域を担う人材の育成へ～探究活動の充実を中心に～	水俣高校では、R6年度から「探究する力を育み、主体的な学びで夢(願い)を実現する生徒の育成」をスローガンとし、探究活動の充実を推し進めている。本事業では、持ち運びの大型スクリーンを導入することで、校内外の様々な場所で発表・報告活動が可能となり、地域との交流拡大や探究活動のPRを推進するとともに、外部講師を招聘し、教職員も更に理解を深めることで、探究活動の更なる充実を目指す。
【若年層支援事業】 木育×建設DXで持続可能な地域づくりに貢献 ～建設業の魅力向上と新時代で活躍する人材の育成～	水俣高校の建築科及び電気建築システム科建築コースの生徒を対象に、特殊車両の運転特別教育や技能講習会、人吉市の水害後の河川工事見学など、実践的な教育を通じて基礎から応用まで学べる場を提供する。また、地元建設業者と連携した中学生への魅力発信や出前授業を実施し、若い世代に建設業への関心を持ってもらうことで、建設業界の人材確保を図る。
今の水俣の海の魅力を伝える諸体験プログラムの拡充	海水浴シーズン外の期間でもマリナクティビティを楽しむための備品整備や、湯の児地域周辺を散策するためのレンタルクロスバイクを導入し、イベントを開催することで、今の水俣の海を“楽しく”知ってもらう機会を創出するとともに、年間を通した湯の児地域や水俣市内への観光誘客を図る。
ドラゴンボートによる地域振興事業	12人乗りドラゴンボート（漕ぎ手10名、太鼓手1名、舵1名）3隻を追加導入し、昨年度開催したパドルフェスティバルを更に充実させ、開催することで、国内外の競技者等の集客や水俣市の競技人口の増加を図り、水俣市への更なる地域振興に寄与する。
History of 湯の児・湯の鶴温泉	湯の児・湯の鶴両温泉地は非常に長い歴史を持っており、湯の児温泉は令和7年度（2025年度）に開湯100周年を迎えるため、湯の児・湯の鶴フリーペーパー冊子作成、湯の児・湯の鶴温泉写真展、湯の児温泉開湯100周年記念商品開発・パッケージシール作成などの事業に取り組み、水俣市の観光客数の増加に寄与する。
みなまた茶プロモーション強化支援事業	全国的な茶の需要低下に伴い価格が低迷している水俣・芦北地域の茶において、PRのための動画作成や紹介HP開設、水俣出身の漫画家江口寿史氏によるみなまた茶イメージイラストの作成、熊本空港でのPR等を実施することで、全国的な知名度の向上及び販売促進を目指す。
水俣・芦北あか牛生産・販売トライアル事業	水俣・芦北地域の黒牛の畜産農家が、新たに「あか牛」の生産・販売（新事業への参入）に向けたトライアル活動を通して、持続可能な地域の魅力ある産業として確立させるとともに、地域全体の（飲食業・観光業・教育など）の発展に寄与する。

ハゼ産地の再生と基盤強化による地域振興	ハゼの振興を図るため、R 7 年度はR 6 年度に導入した機械を活用し、地域のシンボルツリーである「宝暦ハゼ」の周辺部の景観整備を行うとともに、荒廃地の再生や収穫した「ハゼの実」の搬出環境改善に取り組む。 なお、引き続き含蠟率の高い優良品種を植林し生産量増と品質の向上、イベントを開催による全国有数のハゼ産地としての認知度向上、R 6 年度に制作するDVDを活用した技能の伝承等にも取り組む。
大規模日本庭園による観光・地域振興	エコパーク水俣バラ園は、年間10万人を超える県南有数の観光名所となっているが、春・秋の開花シーズン以外の集客に課題がある。そのため、竹林園を改修し、九州トップクラスの大規模日本庭園を整備することで、インバウンド需要なども含め、年間を通じた集客を目指す。
選ばれるみなまた推進事業（インバウンド等推進事業）	水俣市は県内の他のエリアと比較して、認知度が不足しているため、インバウンド向け及び在熊台湾人含む県内在住の外国人をターゲットに、KOL、訪日メディア、特設ホームページ、SNS広告等の各種媒体を活用し、時期、特性を生かした効果的なプロモーションを展開する。 また、市内観光事業者に向けた受入体制整備のためのセミナーも開催する。
芦北町農業インターンシップ	甘夏や不知火類（でこぼん）等の柑橘類を中心に12月～1月の繁忙期に学生を中心とした若者を地域に呼び込み、人手を必要とする受入農家のもとで8日間のインターンシップを行うことで、農家の人手不足や継承者不足の解消、また、町外から人を呼び込むことによる関係人口の創出を図る。
わらび粉製造による地域のコミュニティの向上	人口減少と高齢化により、大野地域の伝統である「わらび餅の神社奉納」及び「わらび粉の製造」が存続の危機に瀕していることから、増加する耕作放棄地を活用し、地域一体となってわらび農園の造成及びわらび粉製造に取り組み、伝統行事の維持・存続、耕作放棄地の有効活用及び地域コミュニティの活性化を図る。
赤松館を活用した文化・建築技術継承と青少年育成、100年カレー復活事業	国登録有形文化財であり、昭和期の料理研究家・故江上トミの生家である「赤松館」を保存・管理しつつ、主に以下の事業を実施する。①歴史的資料の展示やパンフレットの増刷による魅力発信、②地域文化継承のための「令和の赤松館カレー」開発、伽哩街道への協力、③まちおこしのための各種イベント開催、④地元小学生等の訪問学習、ワークショップの開催等による総合学習の支援、⑤近隣の建築科学生への総合学習、工務店等と連携した若手大工を対象とした工法の検証と修復技術の伝承。
芦北町魅力発信事業	芦北町の魅力を全国に伝える動画を制作し、発信することで関係人口を拡大し、外部からの関心を高め、呼び込むことで町の知名度向上と地域経済の活性化を図り、観光・物産の振興、移住定住の促進につなげる。
あしきた笑顔プロジェクト～いま、スポーツにできること～	芦北町はスポーツによるまちづくりを進め、空手やバドミントンなどで数多くの日本代表選手を輩出するなど、スポーツが盛んな町である。一方、部活動の地域移行や選択肢・価値観の多様化により、日ごろからスポーツに関わる機会が減少傾向にある。今回、オリンピックを招聘し、地域の子どもたちとの交流イベント等を実施することで、スポーツの魅力や楽しさを伝えるとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大や町の活性化を図る。

生命食いただきアース（地球環境を考慮した農業及び地域振興事業）

芦北町では人口減少と高齢化による耕作放棄地の増加等が大きな課題となっており、農業振興と地域活性化が求められている。そこで、栽培試験に必要な土壌分析や資材を導入し健康増進効果が期待されるオーガニック栽培のベースを作るための実験的栽培を行いながら、研修会や体験イベントなどを通してオーガニック栽培を地域に広げ、農業振興に繋げていく。

住民参画型アートプロジェクト
岡本光博つなぎプロジェクト

津奈木町の郷土誌にも掲載されている古代史から、T SMCの進出などによって激変する現代の社会状況までを住民を中心とした実行委員会と招聘アーティストの岡本光博氏がともにアイデアを出し合い、より多くの人々に未来について考えてもらえる機会となる成果展を開催する。